



# 個人投資家向け説明会

2013/07/19

**modulat**

モジュレ株式会社（東証JASDAQ：3043）

<http://www.modulat.com/>

# 目次

◇ はじめに	・・・	3p
◇ モジュレVISION	・・・	4p
◇ ビジネスモデル	・・・	5p
◇ 事業領域	・・・	6p
◇ モジュレ前とモジュレ後	・・・	7p
◇ 2013年03月期の総括	・・・	8p
◇ 2014年03月期の見通し	・・・	9p
◇ 財務諸表:損益計算書	・・・	10p
◇ 財務諸表:貸借対照表	・・・	11p
◇ 財務諸表:キャッシュ・フロー計算書	・・・	12p
◇ その他指標の推移	・・・	13p
◇ 新・中期経営計画	・・・	14p
◇ 会社概要	・・・	15p
◇ 社名の由来	・・・	16p
◇ モジュレの共有理念	・・・	17p
◇ お問い合わせ	・・・	18p

## はじめに

---

---

モジュール株式会社でございます。

本日は、当社説明会にご参加頂きありがとうございます。

- 当社について

- ・1999年設立。2006年6月に大証ヘラクレス(当時。現東証JASDAQ)に上場しました。
- ・お客様から長期に渡るご信頼を頂き、堅実に業績を重ねてまいりました。

- 事業内容

- ・ITアウトソース事業を行っております。
- ・情報システムの導入から維持・運用・管理、更には廃棄までワンストップでサービスを提供しております。

- 次ページより、詳しくご説明してまいります

# モジュールVISION

小型コンピュータ\* の  
基盤サービス でNo.1

モジュ  
レ  
VISION

日本有数の「ITアウトソーサー」

\*小型コンピュータ = パソコンやパソコンサーバー



個別環境

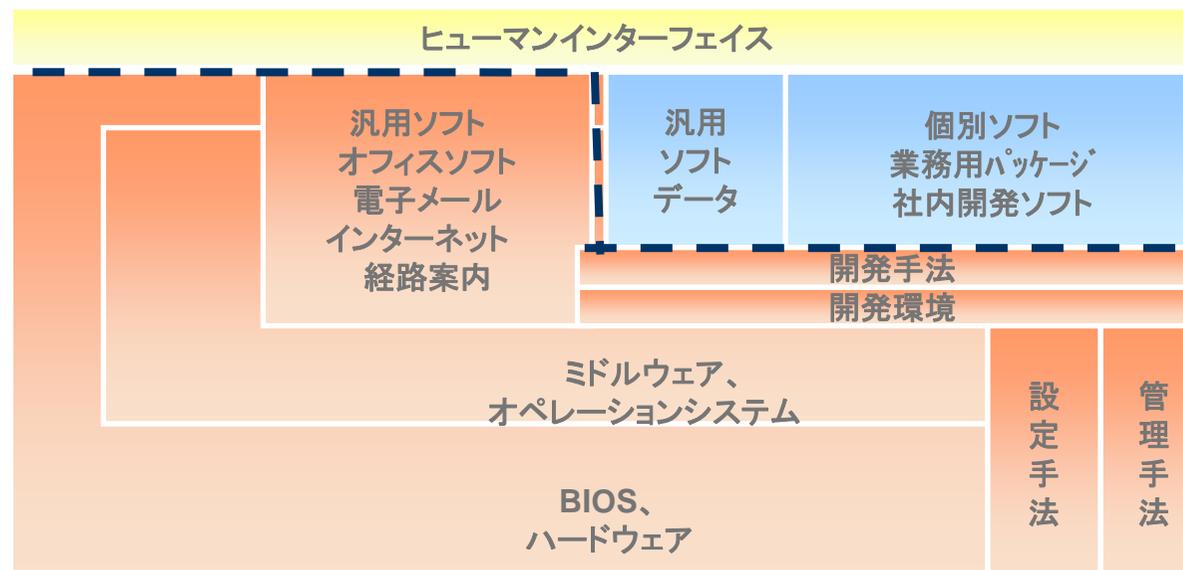
競争力を高める**独自の**仕組み



基盤環境

個別環境を支える**ITインフラ**

標準化が可能！



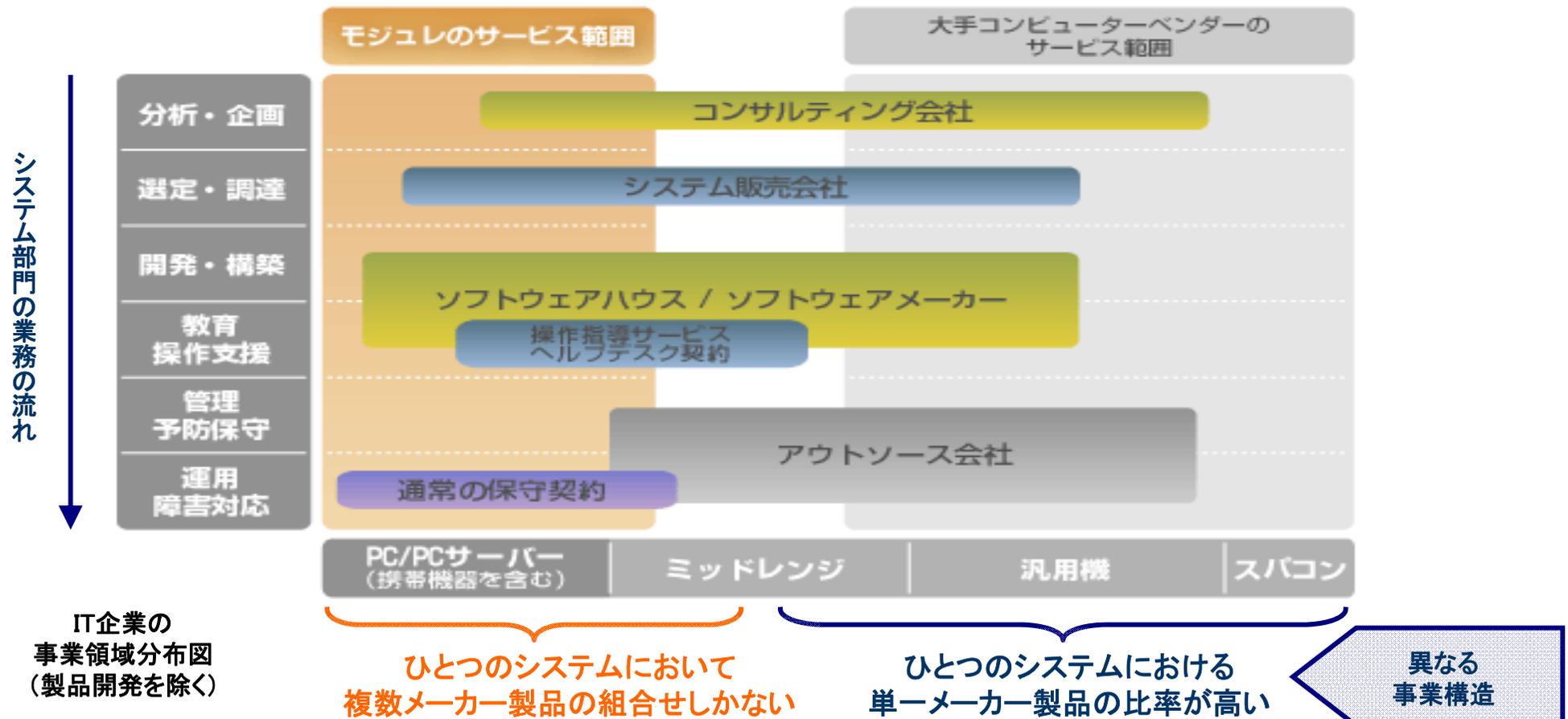
個別環境  
サービス

主に**独自の**  
業務用システム

PC/PCサーバーシステムの構成モデル

# 事業領域

大手ベンダーの強みが発揮出来ない「PC/PCサーバー領域」のみに特化！



# ビジネスモデル

## 事業内容 = ITアウトソース事業

企業は **システム部門の運用管理業務** を  
モジュールへ **アウトソーシング**

ITAS  
(アイタス)

		ITサービス (ITAS)	
モジュール	利用技術	PCやソフトはメーカーが製造。 しかしそのままでは稼動しない。 何を？ どう？ 組み合わせせて、使い易く、安定させるか？	
		企画	・立案支援 ・情報収集 ・ITスキル維持 ・技術検証
		運用	・障害予防・セキュリティ対策 ・正常稼動監視 ・設備運用支援
		障害回復	・障害分析 ・障害回復 ・保守会社調整 ・障害報告
		ユーザー支援	・利用ルール策定 ・ユーザー教育 ・問合せ対応
		管理	・IT資産管理 ・ライセンス管理 ・ユーザー管理 ・人事異動対応支援
	導入構築	・製品比較検討 ・購買交渉 ・契約支援 ・納期調整 テスト ・導入後評価	
商品	小型コンピューター		
	パソコンやPCサーバー (殆どの企業で使用)		

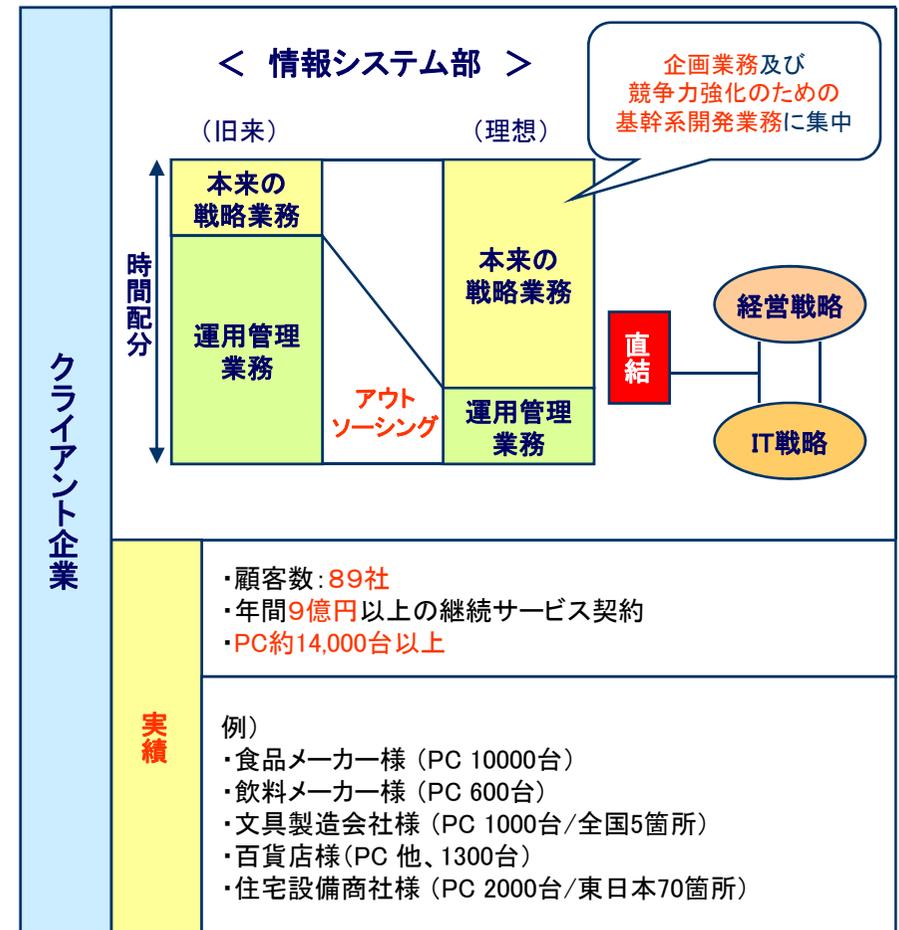
提供



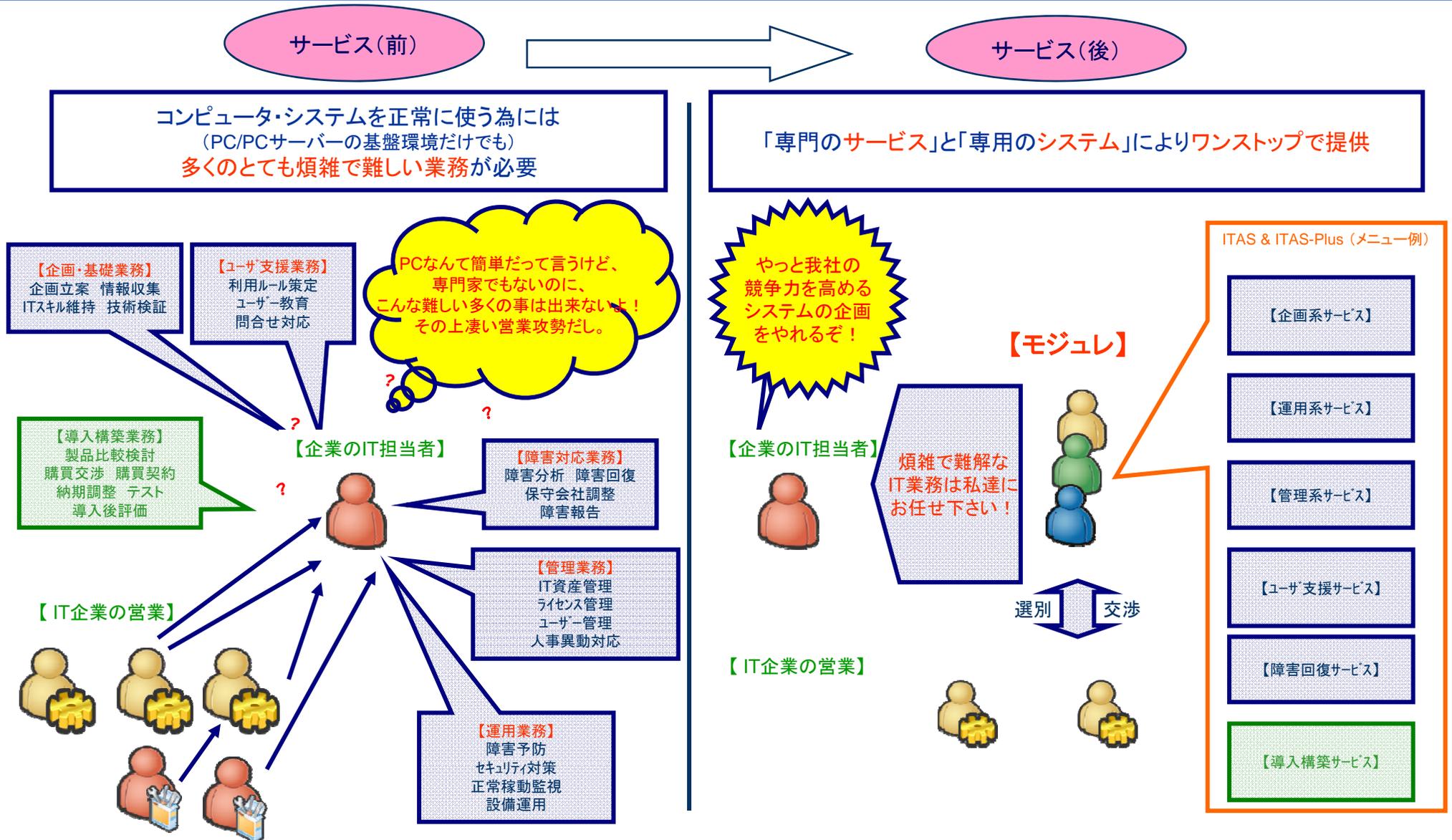
運用管理業務



アウトソーシング



# モジュール前とモジュール後(サービス前とサービス後)



# 2013年03月期の総括

## 期首予想を超え、新規投資も行いつつ、利益計上体質を更に強化

- ・上期は不透明感があったものの、堅実に実績を積み重ね、3期連続の増収増益。
- ・03月の上方修正も超え、売上総利益、経常利益、純利益は過去最高額を計上。
- ・新サービス構築の初期費用を投資しつつ、利益を確保。

## ITサービス特化を継続し契約拡大、新たな大手クライアント様も獲得

- ・今期もITサービスは前期比16.7%増と順調。過去最高の12億円超。
- ・商品売上也回復傾向にあり、前期比23.0%増を計上。
- ・新しい大手クライアント様とのお取引開始。事業基盤の強化に寄与。

## 上場企業の責務を全う、復配

- ・ガバナンス強化を達成し、03月に特注指定が解除。新管理体制の評価を得る。
- ・社員数10%増加、オフィスを移転、働きやすい仕組みの模索を始める。
- ・純資産30%増加、営業C/Fも3期連続プラス。数年来の懸案であった復配を達成。

# 2014年03月期の見通し

## 堅実な成長を堅持しつつ、新サービスも収益の柱へ

- ・4期連続の増収増益を目指し、今後の数年間の規模の発展の礎にする。
- ・既存ビジネスを堅持しつつ、新サービスが収益貢献へ。
- ・売上20億円、純損益1億円へ。(人件費の適正化を推進)

## 新ビジネス「スマートデバイス」、「ソフトウェア関連」、「ITセキュリティ」

- ・継続ITサービスは長期化、安定化、大型化を加速。自動化ソフト内製で効率化へ。
- ・新サービスでは、ソフト、ツール×2は更に拡大、自社開発製品もリリースへ。
- ・非対面営業を指向する営業展開も開始。初のPR活動も開始計画。

## 現場回帰の加速、官僚主義的な制度を打破、ベンチャーらしさを再強化

- ・強化された経営管理体制を継続しつつ、ベンチャーらしさやスピード感を再強化。
- ・自由な労務環境構築をさらに加速させ、付加価値的側面からも企業価値向上を。
- ・経営基盤と財務の強化を継続。増配も目指す。

# 財務諸表：損益計算書

(百万円)

	12/03期			13/03期			14/03期	
	実績	対前年比		実績	対前年比		予測	対前年比
<b>売上高</b>	<b>1,511</b>	121.9%		<b>1,793</b>	118.7%		<b>2,000</b>	111.5%
ITサービス	1,040	121.2%		1,214	116.7%		1,308	107.7%
商品	470	123.4%		579	123.0%		691	119.4%
<b>売上総利益</b>	<b>374</b>	118.6%		<b>465</b>	124.3%		<b>501</b>	107.7%
ITサービス	317	122.4%		374	117.9%		406	108.6%
商品	57	103.6%		91	160.0%		95	104.2%
<b>販管費</b>	<b>288</b>	116.4%		<b>361</b>	125.0%		<b>361</b>	100.1%
<b>営業損益</b>	<b>85</b>	126.6%		<b>104</b>	121.7%		<b>140</b>	134.0%
<b>経常損益</b>	<b>88</b>	122.6%		<b>187</b>	212.8%		<b>190</b>	101.3%
<b>当期純損益</b>	<b>72</b>	111.4%		<b>88</b>	121.6%		<b>100</b>	112.7%

- ◆ ITサービスが順調 : 大手企業様の案件等に加え、商品売上も回復の兆しが見え始める。
- ◆ コスト適正化 : 将来へ向けての必要な投資を行い、販管費率は19.1%(12/03期) → 20.1%(13/03期)。 来期は販管費はほぼ変わらず適正コストを維持して営利増。
- ◆ 高利益体質へ : 収益構造の改善を続け、営業利益率の更なる向上を目指す。

# 財務諸表：貸借対照表

					(百万円)				
	12/03期		13/03期		12/03期		13/03期		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	452	36.4	531	42.7	流動負債	716	57.7	706	56.8
現預金	80	6.5	163	13.1	買掛金	182	14.7	145	11.7
売掛金	215	17.4	177	14.3	1年内返予長借	265	21.4	257	20.7
たな卸資産*	94	7.6	128	10.3	前受金	165	13.3	181	14.6
その他	61	4.9	61	5.0	その他	102	8.3	122	9.8
固定資産	789	63.6	713	57.3	固定負債	238	19.2	159	12.8
有形固定資産	434	35.0	348	28.0	負債合計	955	76.9	866	69.6
(減価償却累計額)*	-373		-459		純資産	286	23.1	377	30.4
無形固定資産	77	6.2	80	6.5	資本金・資本剰余金	408	32.9	285	23.0
投資その他の資産	277	22.4	284	22.8	利益剰余金 他	-121	-9.8	92	7.4
総資産	1,241	100.0	1,244	100.0	負債純資産 合計	1,241	100.0	1,244	100.0

\*たな卸資産には、リース投資資産を含む。 \*減価償却累計額には、減損損失累計額を含む。

- ◆ 現預金及び棚卸資産の増加等により、流動資産が増加。
- ◆ 貸付金の回収、減価償却及び借入金の減少により、固定資産及び負債が減少。
- ◆ 前期株主総会の承認により、資本準備金の減少及び欠損填補を行い、繰越損失を解消。当期純利益の計上によって利益剰余金が増加し、純資産が増加。

# 財務諸表：キャッシュフロー計算書

(百万円)

区 分	12/03期	13/03期
営業キャッシュ・フロー	158	114
投資キャッシュ・フロー	△ 88	56
財務キャッシュ・フロー	△ 39	△ 88
現金及び現金同等物の期末残高	80	163

- ◆ 営業キャッシュ・フロー : 税引前当期純利益の計上、減価償却費等により獲得
- ◆ 投資キャッシュ・フロー : 固定資産の取得等あったが、貸付金の回収等により獲得
- ◆ 財務キャッシュ・フロー : 長期借入金の返済による支出等により使用

## その他指標の推移

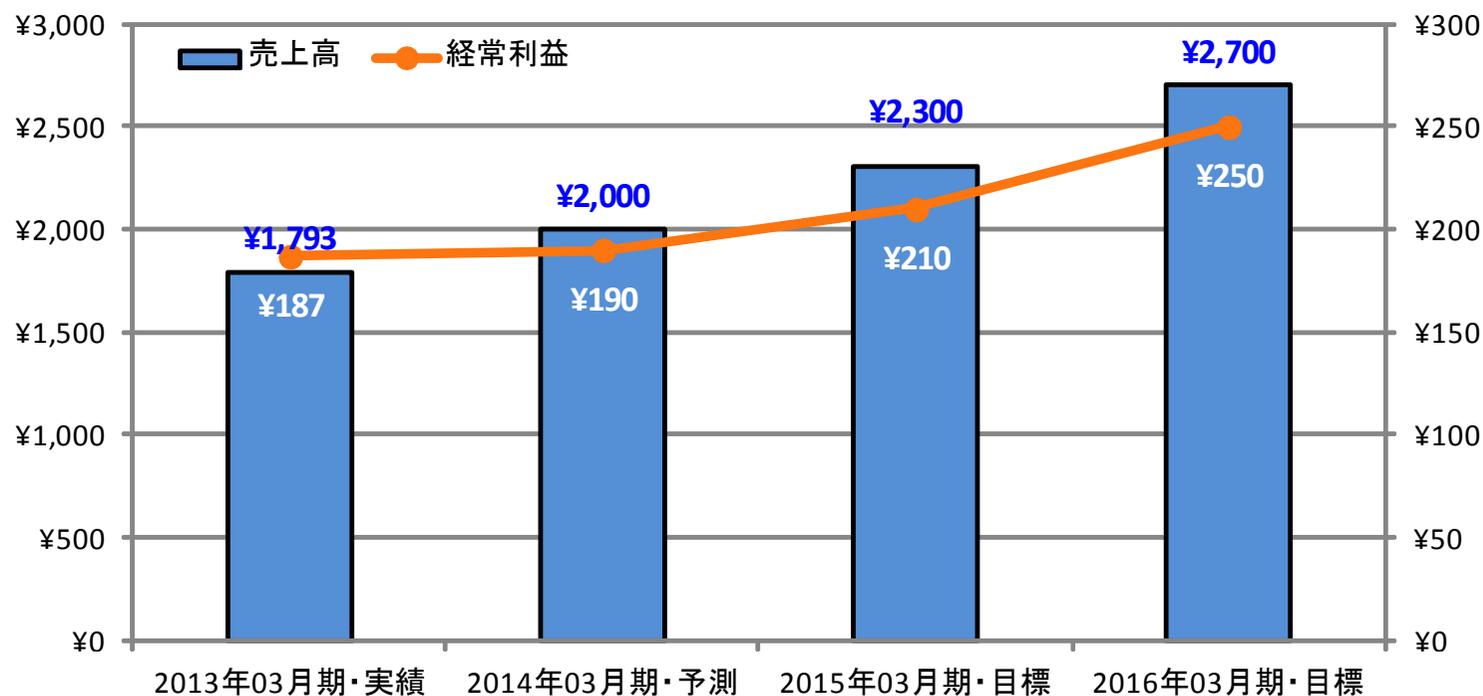
	05/5期	06/5期	07/5期	08/5期	09/5期	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3予
顧客数(社)	28	35	51	69	69	67	56	68	89	110
対前年	0.0%	25.0%	45.7%	35.3%	0.0%	-2.9%	-16.4%	21.4%	30.9%	23.6%
年間継続 契約額(百万円)	258	343	558	663	771	813	827	856	965	1,000
対前年	18.9%	32.9%	62.7%	18.8%	16.3%	5.4%	1.7%	3.5%	12.7%	3.6%
社員数(人)	32	36	52	50	41	41	39	56	62	65
対前年	6.7%	12.5%	44.4%	-3.8%	-18.0%	0.0%	-4.9%	43.6%	10.7%	4.8%
経常利益率	2.6%	5.5%	6.2%	2.3%	-17.5%	9.5%	5.8%	5.8%	10.5%	9.5%
EPS(円)	2,720.13	6,853.98	5,970.68	84.99	-33,552.62	4,191.93	4,782.24	53.28	64.77	72.99
配当性向	20.0%	16.4%	24.8%	—	—	—	—	—	25.0%	24.7%

•08/5期,09/5期の数値は、決算訂正後の数値を記載しております。

•2013年4月1日付で1:100の株式分割を実施。12/3期～13/3期のEPSは、遡及修正を行った場合の数値を記載しております。

- ◆ “顧客数”は、新規顧客を獲得して21社純増。そのうち、継続契約ありの顧客は1社増。  
14/3期は、新サービスを入り口として、新規顧客を獲得して21社純増計画。
- ◆ “年間継続契約額”は、109百万円の純増。14/3期は、10億円を目指す。
- ◆ 社員数は、エンジニアチームを中心に増員。14/3期は微増予定。(効率化優先)
- ◆ 経常利益率は、引当金の戻入により増加。収益性向上を目指し継続的に改善を続ける。
- ◆ 復配を達成。配当を継続し、配当性向25%程度を基本に更に向上を目指す。

# 新・中期経営計画



(単位:百万円)

	2013年03月期・実績	2014年03月期・予測	2015年03月期・目標	2016年03月期・目標
売上高	¥1,793	¥2,000	¥2,300	¥2,700
経常利益	¥187	¥190	¥210	¥250

- ◆ 順調に推移している「企業向けの継続ITサービス」を中心に、引き続き、新サービス等にも注力、及び更なる経営体制の強化を力に変え、今後も力強く堅実な成長を計画しております。

※ 仔細は配布資料の「中期経営計画」をご覧ください。

# 会社概要

(2013年07月19日現在)

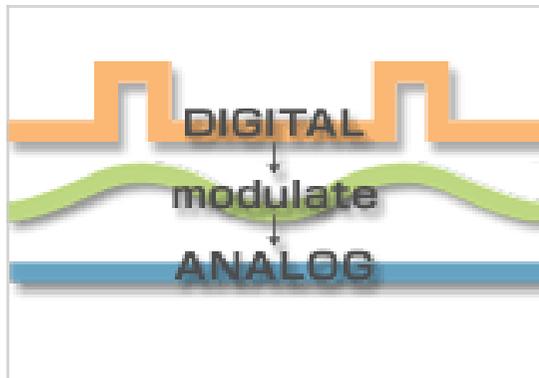
会社名	モジュール株式会社
所在地	〒108-0014 東京都港区芝五丁目25-11 ヒューリック三田ビル 2F
取締役会長	松村 明
代表取締役	営業・戦略担当 木原 礼子 経営・管理担当 藤井 隆徳
設立	1999年9月
事業内容	ITアウトソース事業
資本金	254,219千円
売上高	1,793百万円 (2013年03月期)
従業員数	62名(2013年03月末日現在)
決算日	3月31日
上場日	2006年6月20日
上場市場	東証JASDAQ(グロース) 証券コード3043
発行済株式数	1,370,000株 (1単元の株式数 100株)
主要株主	松村 明 (33.09%) 清水 博行 (4.99%) 高松 忠行 (4.78%)
主要得意先	株式会社明治、三菱鉛筆株式会社、エレマテック株式会社、株式会社東武百貨店、カルピス株式会社 など

# 社名の由来

## モジュレって？ What's modulat?

私たちの仕事は、お客様のために、「IT／情報技術」と「自由な発想」を基軸として、生活や非効率や無駄を、効率が良い状態／心地いい状態へ変える(modulate)事です。

**We modulat your business to success, your life to fun!**



### ■アナログからデジタルへ

“modulat”の語源は“modulate(=変調)”・・・ITの世界では、アナログ信号とデジタル信号の変換を指します。一般的にはモデム(アナログとデジタルの変換機器)が有名です。語源のように”リアルな社会(アナログ)”と”コンピューターやインターネット(デジタル・バーチャル)”をつなぎ合わせる役割・・・すなわち、いつも人間側の視点で情報技術を利用し、世の中から無駄をなくしていくお手伝いをしたい！と考えております。

# モジュールの共有理念

## 責任ある自由の共存 Responsibility&Flexibility

私たちモジュールのメンバーは、ビジネスの責任を果たしながら、  
お互いの自由を尊重し仕事を進めています。  
情報技術と自由な発想を基軸に社会とお客様に貢献し、  
私たち自身も高め、お互いに幸せになること、  
私たちはそんな良質なビジネスチームであり、  
そして常にそうありたいと考えています。



私たちは権限譲渡を進め、  
自律的に仕事を行える環境、また、  
社員が働き方を選択できる多様性  
に準じた環境を目指しています。  
この新しいオペレーションモデルに  
よる優秀な人材の確保と活躍が  
業績向上に寄与しています。



# お問い合わせ

## 当社説明会にご参加頂き、ありがとうございました

### 【 I R 窓 口 】

ストラテジック プランニング サービス

E - mail : [ir@modulat.com](mailto:ir@modulat.com)

Tel : 03-3454-2061

Fax : 03-3454-2062

<http://www.modulat.com/>



### <本資料お取扱い上のご注意>

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。